



# 輝く介護

第 43 号

2020 年(令和 2 年)  
3 月 31 日発行



発行: 鎌倉市高齢者いきいき課介護保険担当  
TEL. 0467(23)3000(代) FAX. 0467(23)7505  
編集: 特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構  
〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内  
TEL. 0467(46)0788 FAX. 0467(46)0059  
<https://www.kamashien.com> e-mail: [jimu@kamashien.com](mailto:jimu@kamashien.com)



## 鎌倉市内で働く介護サービス事業者連絡会の研修の取組み

かまくら地域介護支援機構ではこれまで三者合同研修と銘打ち、市内の訪問介護、デイサービス、ケアマネジャーの各事業者連絡会が協働して、資質向上のための研修を毎年実施してきました。今年度はそれに加えて、地域包括支援センターとグループホーム等を主体とした地域密着型サービス事業者の二者を加えた、五者合同研修を開催しました。

研修テーマは、「尊厳を守った『ひと理解』とその共有」～鎌倉型地域ケアシステムの実現を目指して～というものでした。鎌倉で働く介護職として、介護サービスを利用する人も、そして提供する人も鎌倉で生活し働くことに自尊心を持てるようにするためにはどうしたら良いか？を考える機会となりました。



介護保険サービスでは、利用者の望む生活、困りごとをどのように解決するかを、ケアマネジャーと相談しつつ計画を立て、そしてケアチームが形成されサービスが開始されます。しかし、私たちの生活のスタイルは様々です。例えば週に 2 回お風呂に入る人もいれば、毎日お風呂に入らなければ体調を崩してしまう人もいます。また、地域の人と交流することが好きな人もいれば、人との関わりを苦手とする人もいます。介護サービスを提供する際には、こうした個別性を十分に理解し画一的なサービスとにならないよう配慮することが重要となります。そのため介護職の人たちは、“その人らしさ”を理解するために聞き取りを行い、利用者の方の生活状況や心身状態また生活歴などを伺うこととなります。

毎日どのように生活しているかを人に伝える事はそれほど大変ではないかもしれませんが、自分の生活歴について、会って間もない介護職の方に伝えると言うのは抵抗感があるかもしれません。今回の研修では、その人らしい生活を守るために必要な情報を得るために、どのように聞き取りを行ったら話しやすいか、また主観を交えずにその情報をどのように共有したらよいかなどを具体的な事例やグループワークを通して学ぶことができました。

これから介護サービスを利用される際には、自宅に伺う介護の専門職の方から生活歴や大事にしてこられた事など質問されるかと思えます。これらは興味本位で聞いているのではなく、鎌倉に住まわれる一人ひとりの生活を支援したいという思いが込められていることをご理解いただければ幸いです。

鎌倉市内でも介護職の不足は深刻になりつつありますが、そうした中で毎日の業務に忙殺され効率を優先したサービス提供になってしまわないよう、介護サービス事業者連絡会では専門職として今後も技術や資質向上への取り組みを進めてまいりたいと考えています。



初の試み!

## 「地域活動コーディネーター養成研修」を振り返って・・・

2019 年秋、かまくら地域介護支援機構で初の試みである「地域活動コーディネーター養成研修」が鎌倉芸術館にて開かれました。3 回シリーズですが、1 日だけ参加もOKという柔軟な参加方法で、年齢・職種・地域等様々、1 回平均 10 名程の参加者。既にボランティア活動に取り組んでいる方、子ども会活動に参加しているママさん、具体的にこれから地域で動き出そうとしている若者、試行錯誤中の方等々が、講義とグループワークを通して顔馴染みとなり、「地域で何かに取り組みたい!」「色々な人と繋がりたい!」という気持ちをお互いに理解し、出会いの場ともなる等、充実した時間を共に過ごす事が出来ました。



本研修は、「地域の中で様々な社会資源と有効的なネットワークを作りながら継続的に地域活動を実践できるコーディネーターとしてのスキルを身につけること」が目的。1 日目は全員初対面という事もあり緊張する 1 日でした(汗)。「地域活動コーディネーターって何だろう?」の導入から開始・・・「地域活動コーディネーター」は、専門職・資格を持つ人が行うだけでなく、誰もが出来る事であり、「こんな事をしてみたい!」の『こんな事』が《ある一人の人・一つのグループ》で実現不可能であれば、異なるグループ同士がつながる事により化学反応を起こし不可能を可能とするのではないかとこの繋がり・出会いの調整役の必要性を感じました。2 日目は実践報告者 3 名を招いての実践活動からの学びを得ました。活動を実行に移す上で必須条件となる「ヒト・カネ・モノ・バシヨ」をどのように調達し準備できたのかをお話頂きました。三者三様で、異なるアプローチで異なる活動でしたが、共通しているのは「思いを形」にしている事でした。



地域包括ケアを内包する地域共生型社会の実現が求められている昨今、誰もが暮らしやすい社会を目指していくためには、福祉・介護・医療等の専門職だけでは到底実現に至る事はできません。地域住民自らが暮らしやすい地域づくりを目指す必要があり、その力を身につけていく必要があると考えます。医療・福祉・介護等の専門職・専門機関が、地域住民の行う地域づくりに参画することにより、より良い地域づくりを行う事が出来、「誰もが暮らしやすい地域」に近づく事が出来るのではないのでしょうか。初の試みの本研修、地域包括ケアを推進する上では、必要な取り組みと考えます。